



「7年かけて開発した製品で、農業の担い手不足解消や作業負担軽減に貢献できる」と話すのは、油圧機器メーカーの東和製作所（美濃加茂市川合町）の板津英仁社長（64）。センサー内蔵型油圧シンダーが、クボタの農業用全地形型車両に採用された。車両が4本の脚を伸縮させ荷台を水平に保って走行する際、セン

近況 農業の負担軽減に貢献

サー内蔵型油圧シンダーが重要な役割を果たす。大阪・関西万博では車両をベースにした汎用ロボット^{汎用ロボット}の試作機も出展されており「林業や建設、災害現場など、自動化が進む分野で需要拡大が見込まれる」と期待する。

トラクターに付けて農地の均平化をする作業機「レーザーレベラー」にも採用され、2025年3月期決算では初の売上高50億円を達成。特殊な油圧バルブ付きシンダーの開発・設計も新たに手がける。年内には新工場が完成予定で「地政学リスク回避や円安による国内回帰の需要に応えたい」と生産能力の向上を目指す。